

まえがき

文化という言葉は、ラテン語の「cultura」という言葉からきたもので、もともと「栽培^{さいばい}」や「耕作」という意味でした。これが文化という意味で使われるようになったのは、「文化というのは、栽培^{さいばい}や耕作と同じように、自然のままの世界にはなく、人間がつくりあげたもの」という解釈^{かいしやく}によるようです。

ところで、文化に似た言葉に「文明」がありますが、この2つはいつたい、どう違うのでしょうか。実は、明治時代のはじめには、文化という言葉はあまり使われず、もっぱら文明と言っていました。それは、福

沢論吉^{ざわ りんきち}が「文明開化」という言葉を広めた影響^{えいきやう}だとされています。

文化という言葉が使われるようになったのは明治20年頃^{ごろ}で、これ以後、文化と文明という言葉の違^{ちが}いが強調されるようになりました。

そして現在では、文化とは「心を豊かにする精神的なもの」を指し、文明は「生活を豊かにする物質的なもの」を指すことが多いようです。しかし、同時に、文明は文化に含^{ふく}まれるとも言われています。そこで、この本では、「ふすま」や「囲碁^{いご}・将棋^{しょうぎ}」などの物質的なものも含めて、さまざまな文化を紹介^{しょうかい}します。

も く じ

ひらがな	4
手紙・はがき	6
雛祭り ^{ひな}	8
折り紙	10
おじぎ ^{あい さつ} (挨拶)	12
畳 ^{たたみ}	14
和室	16
ふすま	18
囲碁 ^{いご} ・将棋 ^{しょうぎ}	20

盆踊り ^{ぼん おど}	22
温泉	24
歌舞伎 ^{かぶ き}	26
(旅行・観光)ガイドブック	28
食品サンプル	30
広告	32
相撲 ^{すもう}	34
七五三	36
節分	38
参考資料	40

ひらがな

わたしたちは、ひらがなを「あいうえお」で習っています。でも、昔は「いろはにほへと・・・」と習っていました。これは47文字の仮名をすべて並べて1回ずつ使い、七五調の「歌」にしたもので、子どもが文字を覚えやすく、手習いの手本とされていたのです。「いろは歌」と呼ばれるこの歌の内容は、仏教の経典のひとつである『涅槃経』の文言からつくられたとも言われています。



日本では主に、ひらがな、カタカナ、漢字という3種類の文字が使われています。ひらがなとカタカナは表音文字と言って、ひとつひとつの文字に意味はなく、「音」だけをあらわす文字です。それに対し、漢字は表意文字と言って、すべての文字に意味があります。

漢字は紀元前1500年頃に中国で発明され、日本へは1世紀頃に伝来し



たとされています。日本には漢字の意味だけではあらわせない言葉もあったことから、5世紀頃から漢字の「音」と「訓」だけを使った「当て字」が使われるようになりました。

たとえば「あ」は「阿」や「安」、「こ」は「許」、「み」は「三」、「て」は「手」などの漢字を使ってあらわすようになりました。これらは、『万葉集』に多く使われたことから「万葉仮名」と呼びます。

8世紀末になると、この万葉仮名を簡略化して書くようになり、できあがったのがひらがなです。

そして、延喜13年（913年）に成立した『古今和歌集』にひらがなの和歌が載せられると、一般にも使われるようになり、これ以降の和歌や文学が発展する大きな原動力となったと言われています。

ひらがなは、明治33年（1900年）に制定された『小学校令施行規則』

於	衣	宇	以	安
於	衣	宇	以	安
お	ゐ	う	い	あ
お	え	う	い	あ

によって48文字（現在は使われていない「ゐ」と「ゑ」を含む）に統一されました。そして、昭和21年（1946年）に「現代かなづかい」が告示され、「ゐ」と「ゑ」が削除され、現在使われている46文字になりました。

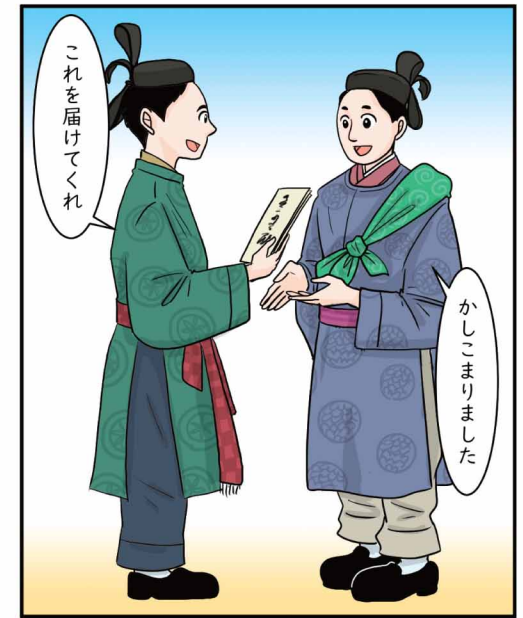
手紙・はがき

人と人とを結ぶコミュニケーションの手段として、手紙は大切なものです。世界最古の文字は紀元前4000年頃、シュメール（現在のイラク、クウェート周辺）で発明されたと言われています。しかし、当時のシュメールでは粘土板に文字を刻んでいたため、持ち運びには適していませんでした。そのため、文字の多くは保管が必要な公用文書などに使われていたのではないかと推測されています。



シュメールとほぼ同時か、やや遅れて古代エジプトでも文字が使われるようになったと言われています。エジプトでは、パピルスという植物からつくられた紙に文字を書くことができました。そこで、文字の発明と並行して、紙による記録や伝達の手段が発展していききました。

記録に残る日本最古の手紙は、478年に雄略天皇から宋の順帝に送られ



た国書（外交文書）だと言われています。

個人間で手紙がやり取りされるようになったのは、万葉仮名で書かれた手紙が2通、正倉院で発見されたことにより、奈良時代に入ってからと考えられています。しかし、手紙が一般に普及したのは江戸時代に入り、五街道が完成して飛脚制度が確立してからでした。ちなみに当時、江戸から大坂まで手紙を届けるには10日ほどかかったようです。

現在のような日本の郵便制度が成立したのは、明治4年（1871年）でした。当初、郵便は東京～大阪間のみで運用されていました。

また、手紙の形態のひとつである「はがき」は、この郵便制度が成立してまもなくの明治6年（1873年）に導入されました。当時の料金は1銭と言いますから、現在の50～100円といったところでしょうか。

それ以後、はがきは庶民の間に普及していきます。さらに明治33年（1900年）に私製の絵はがきの使用が許可されたことで、一般的な通信手段になりました。

